

ソフトウェア品質 知識体系ガイド - SQuBOK® Guide V3 紹介-



自己紹介：飯泉 紀子（いいづみ のりこ）

SQuBOK策定部会 V1:執筆者 → V2:エリアエディタ → V3:リーダー

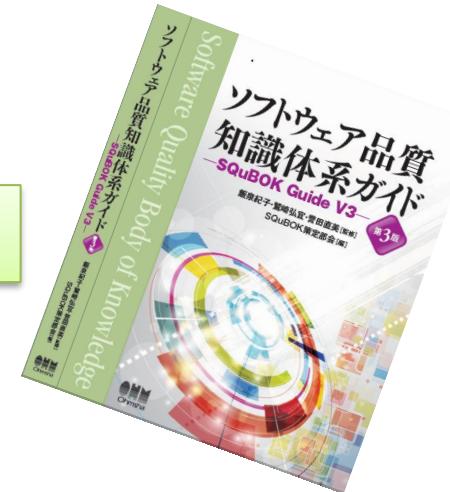
- 社外活動： SQIP運営委員会 副委員長
SQIP研究会 実践コース主査
- 勤務先： 株式会社日立ハイテク CSR本部
- 専門： ◇ プロダクトソフトウェア開発技術
◇ 顧客価値創造の研究
- 資格： ◇ 技術士(情報工学部門) 2003年
◇ MBA(Bond大学) 2012年
◇ キャリアコンサルタント 2014年
- 著書： 共著「ソフトウェア開発オフショアリング完全ガイド」
日経BP社, 2004年10月
共著「ソフトウェア品質知識体系ガイド第1版、第2版、第3版」
オーム社
- 社外活動： 中央大学 兼任講師(2011～)
日本女性技術者科学者ネットワーク(JNWES)：運営委員



ソフトウェア品質知識体系ガイド-SQuBOK Guide-

- SQuBOKは、日本発のソフトウェア品質知識体系
- ソフトウェア品質という軸で技術を体系化

「すべての人々に品質技術を！」



- **ねらい**
 - ソフトウェア品質に関する暗黙知の形式知化
 - ソフトウェア品質に関する最新のテーマの整理、体系化
- **対象読者**
 - 経営層、起業家
 - 開発に携わる技術者やその管理者
 - 品質保証に携わる技術者やその管理者
 - 将来ソフトウェア業界で働くことを希望する学生の方々

知識体系とは

- 専門領域の知識を集め、それらにアクセスしやすいように整理した目次のようなもの
- 関連付けてまとめることにより、理解や活用を促進

SWEBOK V3.0
ソフトウェア
エンジニアリング知識体系



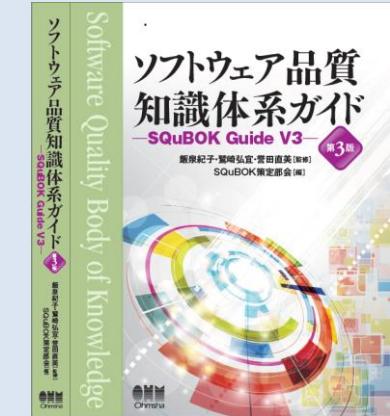
IEEE Computer Society
更新年：2014

PMBOKV6
プロジェクトマネジメント
知識体系ガイド



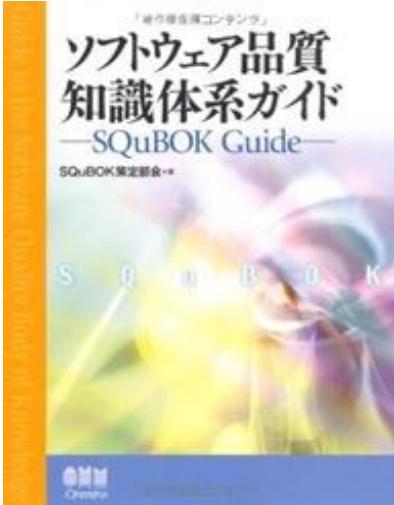
Project Management
Institute(PMI)
更新年：2018

SQuBOK Guide V3
ソフトウェア品質
知識体系ガイド



SQuBOK策定部会
更新年：2020

SQuBOK V1 (2007年発刊)



- 【構成】 1章 「ソフトウェア品質の基本概念」
- 2章 「ソフトウェア品質のマネジメント」
- 3章 「ソフトウェア品質技術」
- 【体制】 執筆者(27名)
- 【ページ数】 380ページ

目覚めよ！品質大国ニッポン

ソフトウェア品質に関する

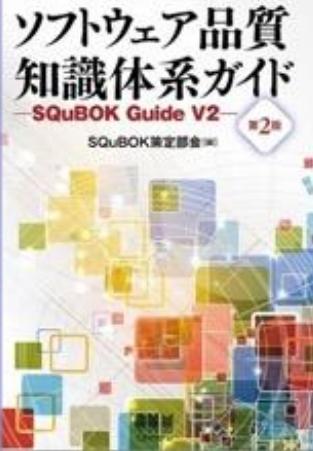
「暗黙知の形式化!」「最新テーマの体系化!」

日本のソフトウェア品質の知恵がここに結集



SQuBOK V2 (2014年発刊)

Software Quality Body of Knowledge



【改定内容】

- (1) **開発技術**の追加
- (2) 「専門的品質特性のソフトウェア品質技術」
使用性、セーフティ、セキュリティを3章に追加
- (3) 国際規格の改定への対応

【体制】 執筆者(56名)、うちエリアエディタチーム(7名)

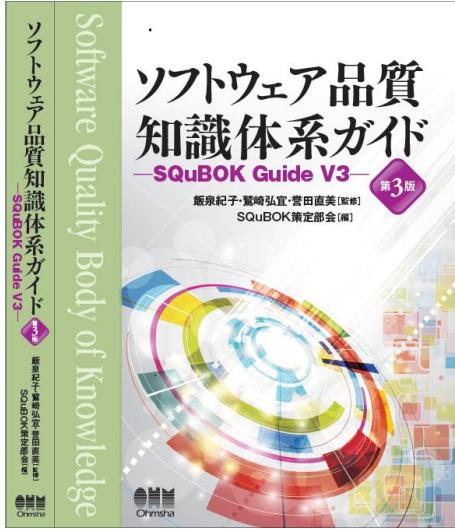
【ページ数】 408ページ

ソフトウェア品質が
安全・安心な社会をつくる!

最新テーマを含め、多くの人や組織が研究、実践してきた
ソフトウェア品質に関する膨大な技術を
整理、体系化



SQuBOK V3 (2020年発刊)



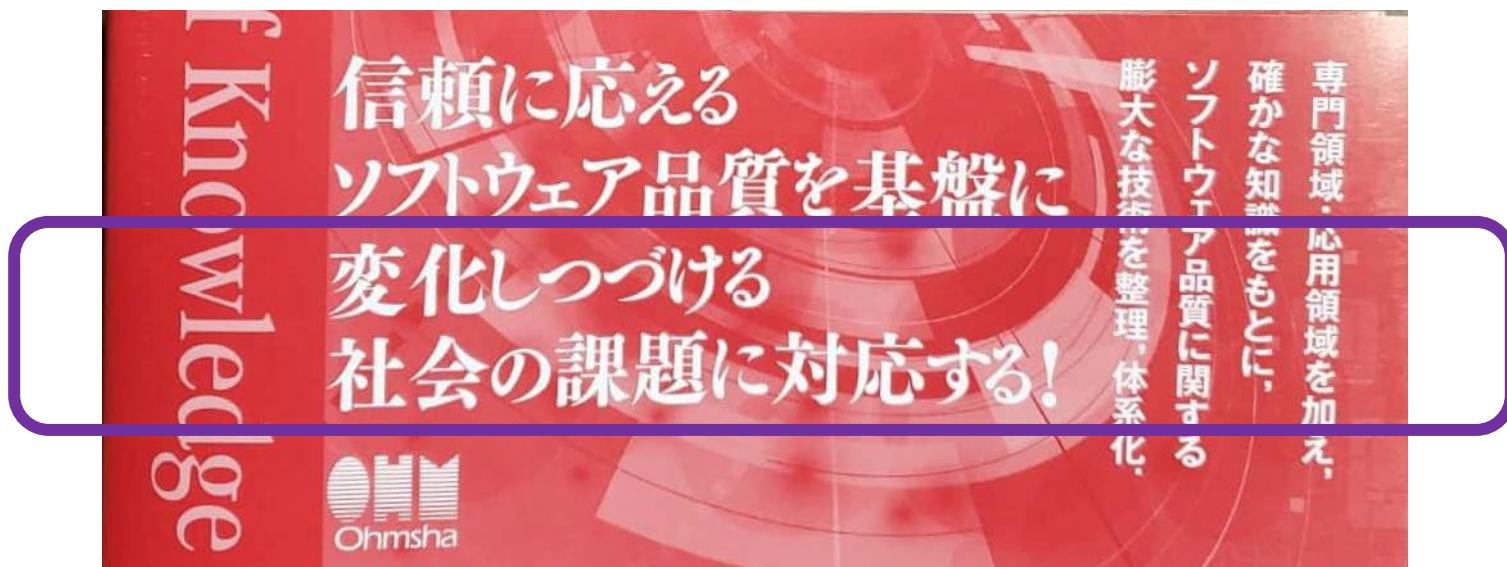
発売日：2020/11/21

定価：本体4,000円 + 税

ISBN 978-4-274-22631-1

【体制】 執筆者(41名)、うち監修(3名)
エリアエディタチーム(5名)

【ページ数】 381ページ



SQuBOK V3 (2020年発刊)

【ねらい】

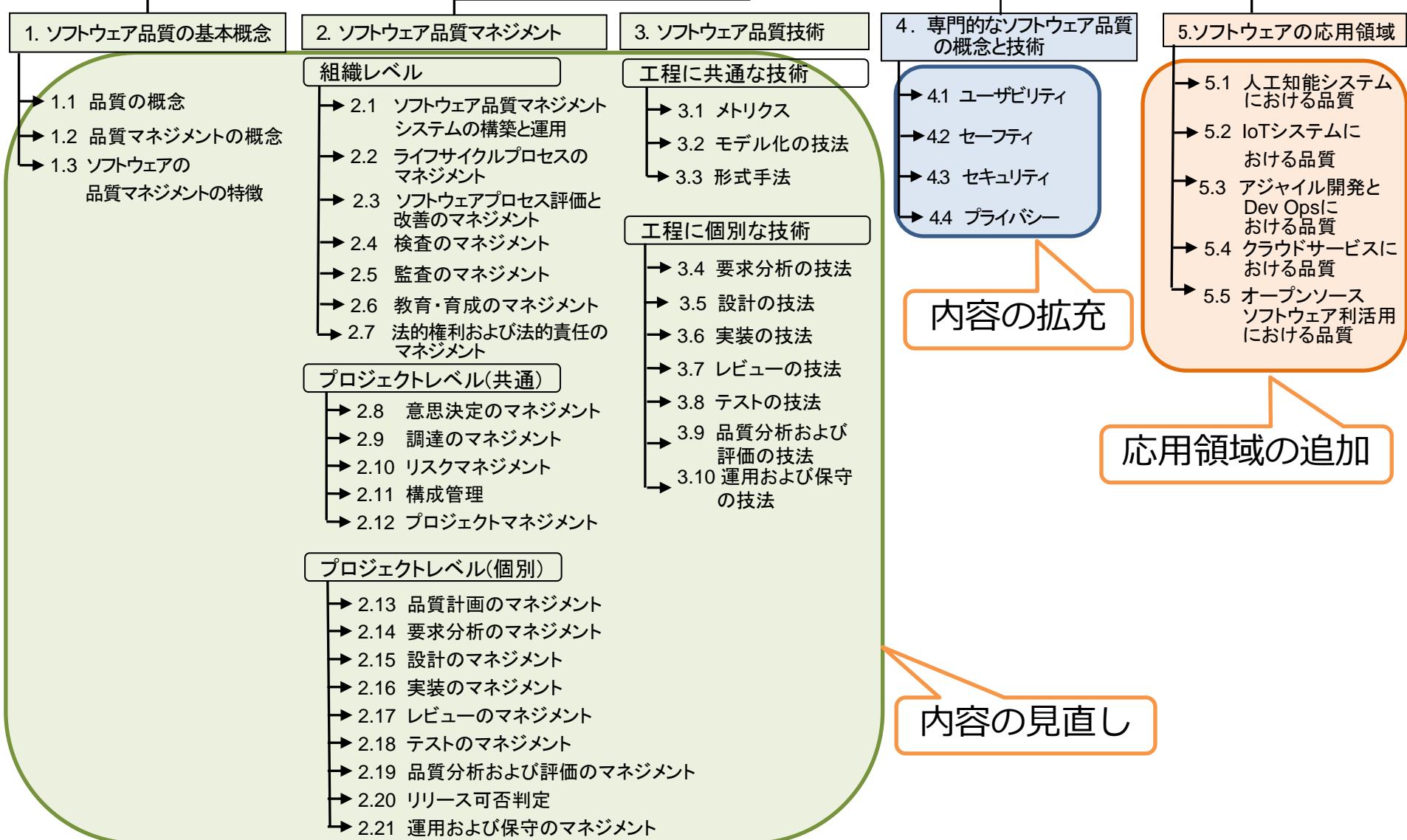
ソフトウェアのライフサイクル、利用環境、果たす役割の変化を踏まえ、「**ソフトウェア品質技術に与える影響**」の観点で、改定と追加を行う。

【改定方針】

- (1) 古典、企業固有の説明は簡素にする
V1、V2発刊時の勢いがなくなったものは、詳しい説明を省き、参考文献や関連文献へ促す
- (2) 「**専門的なソフトウェア品質の概念と技術**」カテゴリの新設
ユーザビリティ、セーフティ、セキュリティ、プライバシー
- (3) 「**ソフトウェア品質の応用領域**」カテゴリの新設
AI、IoT、クラウド、OSS,アジャイル
- (4) 規格の改定への対応
- (5) 執筆に関わる人財の新陳代謝を促進する(**半数がV3から**)

SQuBOK V3の構造 (樹形図)

Guide to the Software Quality Body of Knowledge (V3)



SQuBOK V3への道（2015年）

- ◆ 2015年5月に、SQIP運営委員会の有志によるSQuBOKスタディ合宿を実施。
 - a. 研究チーム：コンテンツを拡充する（論文、書籍など）
 - b. 調査チーム：規格や論文、書籍などでソフトウェア品質の動向を把握する

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">◆ 日本における品質保証◆ レビュー(静的解析)◆ メトリクス | <ul style="list-style-type: none">◆ テスト設計の技法◆ 欠陥エンジニアリング◆ プロセス改善◆ アジャイル開発 |
|---|--|



△合宿、
チーム立ち上げ △執筆開始 △β版公開 △出版

追加コンテンツを創出しながら5年での発刊を目指す！

SQuBOK V3への道（2016年～）

◆ 2016年9月より、“SQuBOK REVIEW”を年1回発行。

2016年：

- ・アジャイル品質保証の動向
- ・日本におけるソフトウェアプロセス改善の歴史的意義と今後の展開
- ・SQuBOK ガイドV2 参照規格の改廃追加の状況

2017年：

- ・レビュー技術動向
- ・現場におけるソフトウェアテストの取り組み
- ・SQuBOK ガイドV2 参照規格の改廃追加の状況

2018年：

- ・AI システムの品質保証の動向
- ・IoT システムの品質保証の動向
- ・SQuBOK ガイドV2 参照規格の改廃追加の状況

2019年：

- ・IoT システムの開発と調達における品質保証の考え方
- ・SQuBOK ガイドV2 参照規格の改廃追加の状況

2020年：

- ・IoT サービスのセキュリティと安全性の確保
- ・SQuBOK ガイドV2 参照規格の改廃追加の状況

SQuBOK V3への道（2017年～）

1. SQuBOK準備チームが、方針と進め方を検討（2017年10月）

- 2020年を妄想して新規追加領域と樹形図を決定

2. 各領域の専門家を集めて執筆開始（2018年2月）

- 新規領域は、一から執筆
- 既存領域は、内容を改定

3. エリアエディターが編纂開始（2019年3月）

- 複数の執筆者によって書かれた文章の、粒度やボリューム、文体などを統一
- 既存領域のページ圧縮のため、表を使用するなど工夫
- 規格や文献を最新版に更新

4. 通しレビュー（2020年1月）

- 有識者コメントとパブリックコメントを反映

2020年11月21日 予定通り発刊！

SQuBOKの使い方

長期的な姿勢が必要となる品質への取組みに対して

- 古典の理解
- 品質の考え方の変遷の確認
- 最新テーマや潮流の把握
- スキルの確認、資格取得
(例) ソフトウェア品質技術者資格認定制度(2008~)
※V3のシラバスに基づく資格認定は、2021年11月からの予定

ソフトウェア品質 知識体系ガイド - SQuBOK® Guide V3 紹介-

